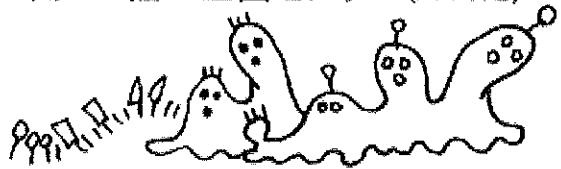


全国の対話と物議の土壤をかもすニュースをお届けします

かもす通信

働く女性の全国センター(ACW2)



写真：ヌエック資料より

ヌエック特集

「週3日労働で生きさせろ」と現実

【ヌエック特集】「週3日労働で生きさせろ」と現実 P2

【異論反論】ちょっと待った！「女性活躍推進法」P11

【かもされ報告】福岡で傾聴トレーニング【連載】相談員奮闘記 P14

UCLA サマーアインスティチュート参加報告 P16

たかが食、されど食/リーフレット新しくしました！/お知らせ P18

カンパのお願い/編集後記/4コマ P23



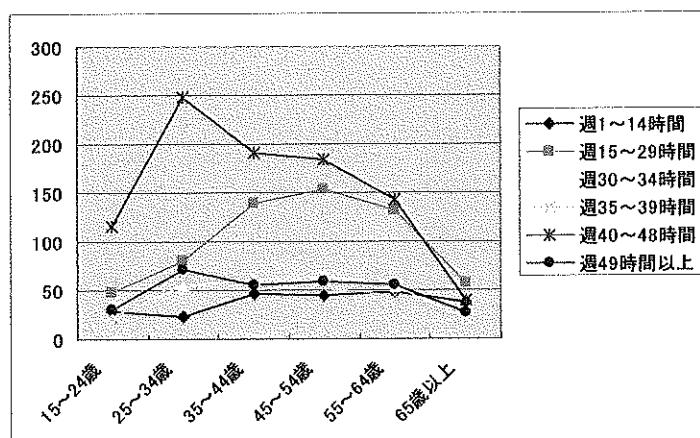
2016 ヌエック特集

「週3日労働で生きさせろ」と現実

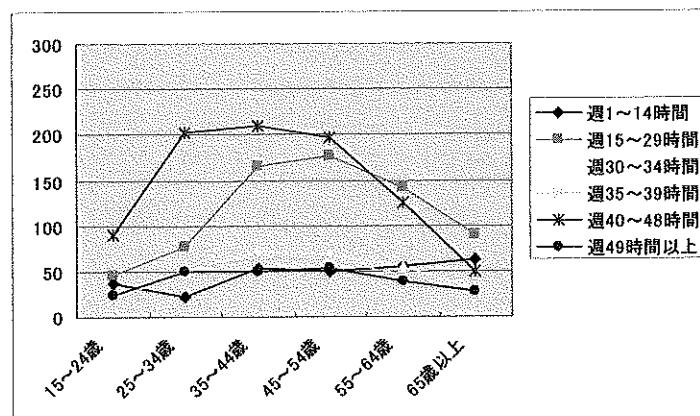
今年(平成28年)も、8月26日(金)～28日(日)に、NWEC 夏の恒例、「男女共同参画推進フォーラム」に運営委員8名で参加してきました。ACW2企画の分科会は3日目(28日)の午前中に行われ、23名の方と一緒にかもしてまいりました。ヌエック全体の参加人数は1000人以上でした。

女性の労働時間と年齢の人口比較表(万人)

■2007年(万人)



■2015年(万人)



ACW2の今年のテーマは「週3日で生きさせろ」です。

それを巡って、賛成反対の両方面から意見が寄せられています。上記の表は総務省統計局の女性の2007年と2015年の年齢と労働時間の比較です。この表でわからることは、フルタイムの労働時間(週40~48時間)が減少し、週3日程度(週15~29時間)の労働が増えているということです。2007年にあった25~34歳のフルタイムの山が2015年ではそつくり消えています。その数単純計算でおよそ45万人です。

このように週3日労働はすでに現実のものとなっています。

まずは、栗田さんの全体の感想からスタートです！



今年も8月26-28日までヌエックの男女共同参画推進フォーラムに参加しました。毎年 ACW2 の参加が恒例となっているフォーラムですが、今年の気がついたことといたしましては

- *かつてなく男性(に見える方)が多い。
- *年配の方が多いけれども、学生の参加も若干あり。
- *「多様性」(ダイバーシティ)を(肯定的であれ、批判的であれ)取り上げる分科会が多い。
- *分科会の数自身は若干減り気味？
- *「女性活躍」という言葉については、肯定するばかりでもない…。

という点があったかと思います。

私は昨年に引き続き、全日程の参加となりましたが、自分たちの参加したもの以外で印象的だったのは、「地域で男女共同参画を進めるために ~ダイバーシティでいいの?」(主催:北京JAC(世界女性会議ロビイ ングネットワーク))。

ダイバーシティという言葉が日本で使われるようになったのは、2000年8月に当時の日 経連が「日 経連ダイバーシティ・ワーク・ルール研究会」なる集まりあたりからだった、(いわば企業主体で使われた言葉だった)など、考えさせられるところが多くありました。

さて、もう一つ。個人的な話ですが、今回日程の合間を縫って初めて丸木美術館に行ってきました。かつて丸木夫妻のアトリエでもあったという美術館。畠の中に佇む一軒家という風です。「原爆の図」以外にもチャルノブイリについての屏風絵や、水俣についての屏風絵も迫力がありましたが、「原爆の図」がやはり印象的でした。というのも「目撃」して、したものの「そのまま」を描いているといいますか…。例えば、原爆が落ちた後に虹がかかったと いう絵が描かれていました。原爆投下後の暗闇、その後の炎…は聞いたことがあったのですが、さらにその後に浮かんだという虹…虹が出るなんて私にとっての想像を超えた出来事だけれど(それこそ虹、レインボーは平和なイメージがあるからこそ)、それこそが「現実」なのだと突きつけられる屏風絵でした。

現実を描く/書くということの凄まじさをかみしめる体験でした。



丸木美術館パンフレット

分科会
出しました
報告

「働く女性の全国ホットライン」10年目のリアル だれもが週3日労働で生きられる社会に

■2016年8月28日(日) 10:00-12:00

■参加者 23人

■プログラム

前半、「ホットライン 10 年目のリアル」報告
後半、「週 3 日労働で生きさせろ」をめぐる、
ワークショップ



「10年目のリアルレポート」(ホットラインと労働トピックス年表付き)を作成、発表

まず、ホットラインを 2007 年に開始してから 10 年目に突入したということで、この間どんな変化があり、最近はどんな相談が増えているのかを駆け足で報告した。「短時間パート」が増え、しごとも雇用も細切れになっている、精神障がいをかかえて働く人の悩み相談が顕在化している、など。

準備するにあたっては、30 ページのレポートを作成した。今年 2 月の大会で特別報告を行ったことをきっかけに、ぼちぼちと分析チームを作ってデータベースの見返し、統計づくりなどを始めたが、まだまだ道半ばである。骨の折れる作業だが、今後も更新してホームページに掲載していきたい。

ホットラインは現在、全国の拠点 4 カ所持ち回りで電話をとっている。相談員は全体で 30 名。相談件数は年間約 400 件。全員がボランティアで、会費と寄付を集めて無料の 2 回線を維持し、通話料だけでも年間 60 万円！ よくもまあ、ここまで続けてきたものだ。

「週3日労働で生きさせろ」をめぐるワークショップ

私たちが今年テーマとしている「週 3 日労働で」。このことを考える土台として、ナガノさんから自分の経験に基づく発表があった。その後、4, 5 人のグループに分かれて話したのが 30 分程度で、時間が足りなかった。このテーマで会員以外の人たちと話し合ったのは初めてで、異論反論もあった。一人ひとりがほんとうに多様な意見を持っていたことはアンケートからもうかがえる。

(今後、11 月の東京ウィメンズプラザでのワークショップでもこの続きをかもし、深める予定だ。)



気づいたこと、よかつたこと

- 現実的か？は置いといて、フルタイム労働前提の視点に真っ向から異議を唱える面白いワークでした。非現実的と言うのにも税金の知識、社会保障、最低賃金、諸外国の賃金と物価など、知るべきことが多いと実感した。逆に言うと、もっとつきつめていけば、コレならOKができるかもしれないということで、とても面白い体験でした。(30代 正規)
- (ナガノさんの)週3日労働の2ヶ月の実践が参考になりました。グループワークは、多様な立場の方が集まった中での意見を聞くことができてよかったです。(50代 正規)
- 「長時間＝働いている」という価値観への違和感を感じながら育児フレックスで働いているので、働き方のスタンダードをどこに置くかという視点、発見がありました。コミュニティカフェでワークショップをしているので、今日のことを還元していきたいと思います。(40代 正規)
- ワークで他の参加者と話ができたのは良かった。ただ、ホットラインを受けていての感想や実態が聞けることを期待していたので、少し残念でした。(50代 非正規)
- ホットライン10年目のまとめがうかがえて良かったです。「週3日労働で生きさせろ」というのは非現実的にも思えるが、グローバル

化で国家の力がおとろえて社会保障もあってできなくなると、地域社会でのわかつ合い、助け合いを本当に役に立つものにしていく必要があり、今後を考えると大切な課題と思えた。(60代以上 非正規)

- 週3日は無理？と感じていましたが、工夫でできるかなと思いました。働く＝給与(お金)と思っていたが、自分の生き方を変えることで週3日労働もできそうですね。これからも考え続けたいと思います。(50代 非正規)
- 「週3日で生きさせろ」という言葉がとてもインパクトがありました。本音ではうすうす感じていたことをズバリと言われ、その言葉に深くうなづきました。ナガノさんが述べられた言葉はたくさん的人がうすうす感じていることだと思います。勇気をもって発表して下さり、ありがとうございました。(30代 専業主婦)
- 発表された内容、資料は大変参考になった。活動内容もわかったので。労働条件の劣悪さに驚きました。労働組合などは存在しない？(60代以上 定年)
- いろいろな立場の方と週3日労働について考えることができて良かった。(60代以上)
- 基礎控除(38万円)をアップしてほしい。生活

保護と同じ金額ではどうなのかと思った。

(30代 非正規)

●週2日労働、週3日対話でよいんでは！？
おもしろい。時間が足りない。つづけていきませう。(40代)

●司会をして、今日は緊張感がなぜかあった。
撮影があったから？ でもいい集まりになつたかな。(40代 非正規)

改善してほしい、リクエスト等

▼ホットラインでの実態と感想をお願いします。

▼海外からの参加者の人が日本の現状を聞いてどう思ったか、少し聞きたかった。

▼一日(6H)の日程で、15～20人のWSが良かったのでは？

▼時間がちょっと足りなかつたのが残念でした。

▼ワークを1日してみたい。たくさんの話を聞きたいし、学びたいです。

▼この場所がおもしろいことに、来てから気づいた。

▼グループディスカッションが週3日間労働のゼビについてでしたが、発表された労働者の貧困、労働状況の劣悪さとはあまりにかけ離れた非現実的なトピックだったので、貴重な時間が無駄になつたし、お互いを知ることにはならなかつたと思う。

平成28年度 男女共同参画推進フォーラム

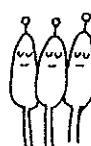
**「働く女性の全国ホットライン」
10年目のリアル**

～だれもが週3日労働で生きられる社会に～

日 時：8月28日(日) 10時～12時
会 場：研修棟 208号室
資料代：300円

私たち2007年からこれまで、3000件以上の相談を受けてきました。
労働契約法、派遣法と非正規・不安定化は進み、働きたくないでも脱けない、倍切雇用・短時間パート、立場の複雑化した職場のいじめやハラスメントなどの相談が増えています。
今回、10年間の変化と現状をお伝えします。
そのうえで、今年私たちが立てた「週3日労働で生きさせろ！」（3日間働けば生活や社会が成り立つように）というテーマを説明し、みなさんと対話をかもしたい。

主催：働く女性の全国センター（AKC2）



追伸

小園弥生

この後9月の拡大運営委員会で、ワークショップで続きをかもすと、「週3日労働」の意味合いは人により、それぞれの体調により、立場と働き方により、全く違っていた。週5日働いてきた人にとっては「可能性」だが、その「可能性」自体プレッシャーだという人も。障がいを持っていて、そもそも生きていることが労働であり鬱である人にとってはどうかということも、運営委員の間ではよく話す。UCLAでの自分ストーリーテリングのもつ力について語られ、また別の人が「ジエニュインネス(自分がいるまま正直であること)」について話すのを聴き、週5日働いてきた私は、ほんとうにこれからどうしていくか、ヒリヒリぐわーんと揺さぶられます。あなたもワークショップにぜひ。

分科会
參加したよ
報告

「週3日」は実現できる

格差を是正し、収入のアップやベーシックインカムで生活の安定を。

小林 蓮実

現在、女性は生き方や働き方、背景や環境などによってまさに「引き裂かれ」ている。だが、このような分断を乗り越え、「だれもが」希望を抱いて生きられる未来を実現しなければならない。

今年度の NWEC「男女共同参画推進フォーラム」での ACW2 ワークショップで印象に残ったこととして、まず、「退職勧奨や条件の不利益変更に直面するたびに相談し、なんとか仕事を続けている状態」「自活できる収入が得られないために親元から出られないが、親との関係に苦しさを感じている」「セクハラ体験のフラッシュバックに悩まされている」「不本意な退職をめぐる怒りがおさまらず、心身の不調を抱えて生活もままならない」などの相談例が紹介されたこと(特定の人の相談ではない)。また、相談者の勤続年数では、5年未満の相談者が増加し、10 年以上が減少。2011 年頃から人間関係に関する相談が増え、特に近年は暴言・いじめ・ハラスメントの相談が多くなっていることについて、労働条件が厳しくなったことに関連しているのではないかと述べられたこともあげられる。ACW2 のホットラインがまさに「社会の縮図」であり、現在、女性がおかれている労働現場の問題が象徴されているのだ。

その後、「だれもが週3日労働で生きられる社会に」のトピックで、ナガノハルさんより問題提起がなされ、ワークショップも盛り上がった。「労働という実験」の表現が、6 つ年上の私にとっても衝撃的。一昔前には「物語」でしかなかった搾取が描かれる「奴隸労働物語」は、もはやこの社会では労働現場のリアルであり、そこに向かうために従来不要だった特別なモチベーションを新たに個々が設定しなければならないのだ。ナガノさんはさらに、時給アップ、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)やアンペイドワーク(無償労働)への考慮についても訴えた。

「週3日労働で生きる」ことを実現するためには、すべての市民が「週3日」をのぞんでもまわる社会を想定しなければならない。ロボットや人工知能に置きかわっても、賃金や報酬のアップ、社会保障の充実がなされればワークシェアリングは実行でき、物やサービスに誰もがお金をまわせるようになる。守られている人の保障が薄くならない形で、この社会に合ったベーシックインカムを追求できれば、むしろ人件費は削減できるといわれている。いっぽう、1%の超富裕層の金をかちとれば、私はそれだけでも「週3日」は可能と考えている。アメリカのドキュメンタリー映画『みんなのための資本論』では、「まずは総中流に戻ればいい」とも語られているのだ。

【話題提供】週3日労働という実験 全文掲載

事前に書いた文章を朗読するという方法をとりました。

こちらに全文掲載いたします。週3日労働について考えるあれこれの参考にしてください。

ナガノハル



私は今、あるひとつの実験をしています。

それは、週3日労働をすることです。

私は現在37歳ですが、高校の留年をきっかけに、ひきこもる時期と社会に無理やり参加する時期を波のように繰り返してきました。最近は、「私は今、無職です」と自己紹介するのも板についてきて、「無職」という存在はこんなに見ず知らずの人に気をつかわせるのだなあ」とどこかひとごとのように感じたりします。美容院などでも「無職」というと、「あ、聞いたやいけないこと聞いてしまった」というように相手のほうが気まずい様子です。無職というのはそれくらい、恥すべきことのようです。私は一方、事実婚の妻であるという身分もあるのですが、「専業主婦」と名乗ることはありません。それは、私にとって、ひどくよそよそしく感じられるからです。

「急け者」の本音

なぜ、週3日労働という実験をしているのか？
それは、ひとえに私の思いつきに責任を取るという格好になってしまったからです。

発端は去年のACW2の年次大会のテーマを決めるところまでさかのぼります。当初「これが主流じゃない？！制約のある働き方」と決まりかけていたところに、「ちょっとわかりにくいのでは？」と私が投げたところから始まります。そこから、運営委員のメンバーたちがかもしあいます。こうなるとACW2の本領発揮で、みな、それぞれあーだこーだと意見を出し、合います。そんな中、「標準労働者モデル」から

「制約ある働き方」へ」という趣旨が出てきました。

現在の主流である週5日8時間労働では、ケア労働をになうことができません。子育て・介護・自分自身の特別なケアを担っていることこそが、本来の姿です。私はそれを聞いて、むくむくと<欲望>がわきあがりました。

「週3日労働くらいで生きていけたら最高なのに」。

普段口に出してはいえない、無職で「急け者」の「甘ったれた」本音です。ここでいう、「急け者」とか「甘ったれた」というのはあくまで社会からこう見られているのではと私が想定してしまう視線からの価値判断です。

それは、週5日8時間、月2回は土曜日出勤をしていた頃の私の偽らざる本音です。でも、そんなことを口に出すもの恐ろしい気持ちがしていました。どこを見渡しても、「スキル」も「能力」も「コネ」もない私には無理な話だからです。

目指せ！<キャリアウーマン>？

「週3日労働で生きさせろ！」というとき、それに対する回答はわかりきっています。スキル・能力・コネを磨け、自分の頭で考え工夫しろ、ということです。そういわれるのがわかっているので、私はそのく<欲望>を考えることすらやめ、口に出すのはもってのほかで、ただひたすら、<事務の女の子>という身分から<キャリアウーマン>を目指して、スキルアップしようと努力しました。けれども、スキルアップした転職先でパワーハラスメントにあい、やめてしまうわけですが。

ちなみに「生きさせろ」は雨宮処凜さんの「生きさせろ！難民化する若者たち」からお借りした言葉です。この場を借りて、雨宮さんにはお礼を言いたいです。ありがとうございます。

ワークショップでの気づき

年次大会も無事終わり、今年の ACW2 のテーマにも採用されました。私はそうして、意気揚々と「週3日労働で生きさせろー」と声に出し、ことあるごとにそのテーマでかもしあっていました。あるとき、「じゃ、具体的にどうやったら、週3日労働で生きられるの？」というワークショップを行いました。3～4人のグループになって、目の前の大きな模造紙に付箋に書いた具体案をどんどん貼っていきます。それを眺めながら、考えてみようというわけです。

さあ、私も付箋に実際どうすればいいか、書くぞとなると、とても重大なことに気がついてしまいました。盲点だったのですが、私が「実際」にやってみるとしたら、「賃労働」することなのです。

なんということだ！まるで気がつかなかった！

周りの週5日労働をしている人たちは口々に「もっと、仕事を減らすには」「時間をゆっくり使えたら、やりたいこと」などなどを書き連ねています。その人たちにとっては、「週3日労働」とは、もっと、時間にゆとりをもつことですが、私のとては時間のゆとりを手放すことなのです。毎日が日曜日、永遠に続く夏休みを終わらせなくてはならないとは。私はなんという愚かなテーマを作ってしまったのだろう。この何もない無職の日々を手放すときがとうとう来たのです。

誰から強要されたというわけでもなく、私は、自分自身の発言に責任をとるというか、突き動かされ、就職活動を始めました。言い出しちゃがやるしかありません。言った本人が実践せず、やる人など現れないだろうとも思ったからです。

「自立」と私—正社員の幻影

しかし、現在の社会の賃金体系では私が、その収入のみで自分をまかなっていくことはほぼ不可能です。私がいま現在、暮らしているのはつれあいに

扶養されているからです。その事実はきちんと認識しておきたいと思います。

しかし、無職の私が、「自立」を目指して、正社員の就職にチャレンジするというのは何か途方もない夢のように思えます。そうするのが、「甘えない」ことであり、「賢い努力」であり、「計画性」のあることなのかもしれません。

現状に適応しようとすれば、どうしたって、「週5日8時間労働して自立せよ」という声をしりぞけることは難しいです。私は常に葛藤しています。無職である最中も、目指すべき「自立」のゴールである週5日8時間労働に向けて準備しているのです。

しかし、その目指すべき「労働」へのプレッシャーから結局「無職」のままなのです。

私はほとんどあきらめています。そういう、一人前の労働者になることを。そして、それが自分の望みではないと気がつくまでに随分時間がかかってしまいました。

賃労働の現場から

私は介護の仕事の面接を受け、その中のひとつに無事就職しました。しかし、その職場というのはまさに生存競争という意味での「戦場」でした。まさに現在の労働現場の縮図といってふさわしい場所です。

勤務日初日に行き届いていない連絡から、同僚たちは私の存在に戸惑っていました。その場で電話連絡にて本部に支持を仰ぐも満足な回答は得られていないようでした。私は簡単な研修のみで、OJT せよと生存競争の波にもまれます。重すぎる非正規職の責任の不満を私にぶつけてくる人。正社員より給料が低いのに教える立場となった非正規職の人の仕事へのモチベーションの低下。自分の仕事ぶりの評価の少なさから、新人の私への教育を済ったりする人。

実際、仕事を教えてくれる人が私と同じ給料な場合、教える人はただただ業務が過剰になるのみでなんのメリットもありません。そういった、構造上の不満はすべて目の前の私にぶつけられます。そして、それは一人の人の性格上の問題などではありません。不満をぶつける人が、ある日は私を歓迎し

ヌエック特集

てくれたり、ある日は親切だった人が、急につっけんどんになったりするのです。そういった態度には賃金や業務量、勤務日数などと関係があるのが見えてきます。

職場の悩み「人間関係」

私はホットラインでの相談員もやっています。ホットラインの相談内容のトップは「人間関係」です。

そして、その分析によれば、労働条件の悪化がそのまま「人間関係」への悩み、そして、いじめの増加につながっています。

実際、働いてみて本当に実感するのは、週3日労働で生きたいと願うとき、それは時給の話だけになつてはいけないということです。現在、最低賃金1500円運動というものがあります。ACW2内では1500円では安すぎる、週3日労働とする場合は時給3000円は必要という議論もあるほどですが、おおむね私は賛成です。しかし、最低賃金運動には、私が現在働いている職場での「人間関係」という労働問題はカバーできません。たとえ私の今の仕事が時給1500円になったとしても、働き続けられなければ意味がないのです。ディーセントワークとカタカナでいうと、どこか遠くの世界の価値観のように感じられるそれは、現実、もっとも必要とされる指針です。

無償労働という視点

私の職場はグループホームで、家事援助と身体介助を行っています。そこで感じるのは、支払われる労働と支払われない労働の差とは一体何なのかということです。特に家事援助などの場合は、家でやっている労働とほとんど同じです。不思議な気持ちになります。家に帰って、料理、洗濯、掃除、ごみ出しなどをしていると、場所が違えば時給がもらえるのに、家でやると無料になるという妙な世界観になんだか混乱してしまいます。労働の質はほとんど同じなのに、支払われるものと支払われないもの。アンペードワークとはまさにこのことです。職場の同僚が冗談のように「家で家事やっていると、これに時給がついたら、ものすごい金額になってるよ」と笑

います。

かつて「家事労働に賃金を」というスローガンがありました。それが達成されないのは、まさに、ただたんに社会に支払い能力がないからなのです。支払い能力がなくとも、生きるためにケアワークは必須です。だから、そこを女たちは担わされてきました。

ACW2での「はたらく」というのは命を支えるということで、賃労働か無償労働かは問いません。私はまさに、この狭間の労働をしています。

週3日労働で生きさせろというとき、ケアワークの無償労働のことを念頭においています。今の私のように支払われようが支払われまいが、労働としてそれはのしかかってきています。

ケアワークを担う者は、わかりやすく発生する賃労働以外に、無償労働を担っています。本来それは労働と換算されてよいはずなのに、「働く」の枠内には収められません。週3日労働で生きさせろというとき、なぜ、週3日なのかと問われれば、ケアワークで無償労働を提供している人たちを含んだ視座だからと説明することにしています。

無職と無償労働

さて、ここまでで、私は自分の中に不思議な価値の転換を経験していることを感じ始めています。私は、自分のことを「無職」と名乗っていました。週3日労働で生きさせろとは就職活動をすることだとも。しかし、介護職をしてみて、気がついたのは、私はすでに働いていたということです。ただ、それは不払い労働であったということです。介護の仕事で支払われるケアワークをするたびに、自分が今までしてきたケアワークの「労働性」を再確認してゆきます。支払われる労働とほとんど差のないそれに、自分がやってきたケアワークの価値を再確認し、自信がわいてきます。

「ああ、私はすでに働いていたのか」と。

ここまでが、私の2ヶ月に渡る実験のあらましです。

そして、今現在もこの実験は続けています。

ちょっと待った！ 「女性活躍推進法」

オンナ派遣労働者が見た現場のホント

「シングルマザーで同じ派遣先に 16 年(不本意ながら記録更新中)」
の渡辺照子より
teruhiroasa@yahoo.co.jp

女性活躍推進法 2015 年 8 月制定と女性のギャップ

旧間に属するが「女性活躍推進法」が昨年の 8 月 28 日に制定(同年 9 月 4 日公布)され、今年の 4 月 1 日に施行されたらしい。「らしい」というのは、成立の状況が安保法案の嵐にまぎれ、ひっそりだったのと、一応「働く女性」である私や私の同僚、仲間には何ら影響がないからだ。しかし、大企業や、女性正社員の方々からはそのメリットを伝える情報もうつすら見かける。「このギャップは一体何だ？」というザックリとした素朴な違和感をお伝えしたい。

留まる事を知らない少子化により、労働生産人口の減少を危惧した政府が「最後の資源」としての女性の労働力を「発掘」「活用」せんと旗振りをする法律が「女性活躍推進法」だと私は思っている。しかし、女性派遣労働者は既に「活躍」はしているが、処遇がそれに見合っていないだけだと言いたい。女性を「多様な人材」とするのも、ケアレスワーカーの男性だけを標準とし、それ以外の属性をイロモノ扱いするようで気に入らないし。まあ、それはそれとして。

「女性活躍推進法」概要と実態

この法律の概要は以下のようになる。(ちょっと法律の説明になるので退屈でしょうが、少しご辛抱をお願い致します。)

「女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するため」に、まず 3 つの目標が掲げられている。

- (1)「性別による固定的役割分担等を反映した職場環境が及ぼす影響への配慮」。
男女によって職務が分けられ、男性には高い評価を得やすい職務があてがわれる、なんてことがないようになるとのことだろう。

- (2)「職業生活と家庭生活との両立」。
これはワークライフバランスのこと。子育てのために仕事を辞めないで欲しい、との政府の意図が見える。だったら保育園に入りやすいようにもして欲しいところだが。
- (3)「本人の意思が尊重されるべき」。
憲法 22 条 1 項(類推解釈ですが)でも保障されている職業選択の自由を含め、当たり前であるはず

ちょっと待った！「女性活躍推進法」

われている「大企業の正社員総合職の女性だけが対象」であることを痛感する寂しい現象だ。

「大企業のイメージアップのため？！」

横並び意識の高い大企業は、イメージアップのためにも「見える化」が要求されるこの法令の行動策定等の義務作業をこぞつて行う。「見える化」が目的だから、一部の女性の「管理職登用」を重点的に行い、華々しい「成果」を誇るだろう。ビジネス雑誌にも取り上げられる可能性も大きいし。「仕事で活躍したければ、良い大学を出て新卒で大企業に入社し、総合職になればいい」というできっこない働き方の強制。もちろん女性はかなりがんばるから、達成できる人もいる。でも、昨年施行の「改正」派遣法によって3年毎に派遣先を辞めていかないといとならない派遣労働者は、長期的なタイムスパンでキャリア形成されないと就任できない管理職になることは事実上不可能。そもそもキャリアパスという昇給・昇格の道筋やキャリアアップを欠落させることが目的で「職務限定」と非正規労働者は位置づけられている。これでどうやって「活躍」すれば良いというのだろう。この法律によって賃金上昇も期待できない、正社員にもなれない。だから、何もメリットはない。嫌な言葉だが「男女格差」がいっそう拡大するだろう。均等法で生じた格差の比ではないかもしれない。「この法律でこんなにもお膳立てしてやっているのに、活躍できない女性は努力が足りない。だから低賃金・不安定雇用でも文句言うな。」というステigmaを付与されそうだ。

新しい雇用法制が施行されると「使えるところは使っていくべし」的な論調が登場する。しかし、ことこの法律に限って言えば、行使するアクターはあくまでも事業主、つまり企業だから女性労働者自身がどう絡んでいけるのかがわからない。

成果の公表の義務化は「社会の目」にさらされる？

成果の公表の義務付けによって、「社会の目」にさらされることが強みだと主張も目にする。だが、悲観的なことを言いたくはないが、「大企業」とされる名だたる企業が、どれほど非正規労働者をひどく扱ってきたことか。女性活躍推進の先鋒を行く資生堂ですら「資生堂/アンフィニ解雇事件」のように、口紅製造ラインにおいて正社員に任せるべき基幹的業務を非正規労働者にさせて、偽装請負や解雇権濫用で訴えられているのだ。そこをどうするのか資生堂は。

せめて私たち女性労働者という当事者が、その「社会の目」になるしかない。まずは自分の足元から。勤務している事業主に「ここの女性活躍推進はどうなっているのか」と可能な範囲で良いから尋ねるとか、仲間でおしゃべりすることからはじめよう。「自分には関係ない」という事実が確認できるだけでも見つけものだ。「関係ない」からといって関心を持たず、知らなくとも良いわけではない。私たちが法律を知らないことでトクをするのは企業と、そして安倍政権だけだから。



内閣府男女共同参画 HP より

福岡で、『傾聴トレーニング』のワークをやってみました コアラ

やっと始まった感のある福岡の「対話の土壤をか・も・すワークショップ」第3回は、「人の話をよく聴く、傾聴と質問のトレーニング」から「傾聴トレーニング」を行った。このワークは、以前、「サポートハウス ジョム」の高山直子さんのファシリテーターで、ワーキング・ウィメンズ・ヴォイスの運営委員は全員ワークを体験しており、ファシリテーター初体験者には、経験あるワークがいいのではないかと、このワークを行うことにした。

参加者は、運営委員 4 名とその他 2 名で、実際のワークは 5 名で行った。

「傾聴トレーニング」は、ペアのワークで、「話し手」の内容を、最初は「聞き手が否定する」、次は「聞き手がアドバイスをする」、最後は、「聴いて、聞いて質問をする(しっかり話を聞く)」というロールプレイを行うもので、全体のワークを通して「傾聴の大切さ」を学ぶものである。

日常では、人の話を否定する場面も少なくないのに、実際のロールプレイでは「聞き手が否定する」というのがやりにくそうだった。「以前、高山さんのワークの時は、結構、みんなうまくやってたよね」という話になり、「高山さんが、迫真のモデルロールプレイやってくれたからじゃない」という話が出て、虎の巻きにも「実際にファシリテーターがモデルのロールプレイを行う」と書いてみてはどうかという意見も出た(でも、ファシリテーターが「モデルのロールプレイ」をするというのはハードルが高いという意見あった)。

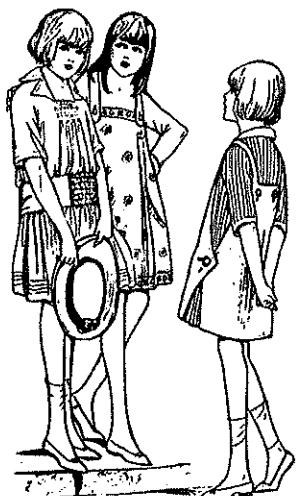
また、専門的な話で、自分の知らない内容だとどうしても否定やアドバイスしにくいという声があり、「話し手の内容」は日常的な話の内容の方がロールプレイをやりやすいのではないかという意見がでた。

最後に全体のワークを通して、良かった点としては、「自彊術(じきょうじゅつ)¹」のアイスブレイクがよかつた」「真面目にワークがやれてよかった」「ホワイトボードにみんなの意見を板書したのはよかった」。気づいた点として「傾聴のトレーニングは、支援(相談)にかかる人は時々やってみることが必要だと思った」「実際の相談を受ける時を考えてやってみるといいかもしれないと思った」という意見も出された。改善点としては「参加者を集めよう」という意見等が出た。

私の個人的な感想としては、「アドバイスをするというのは、自分の方が(相手より)よくわかっていると思っていることだ」と改めて確認した。

また、それぞれのロールプレイの後ペアで話し合うことになっているが、参加者が少なかったためか、ワークが終わった後に各人がワークを行って感じたことを直接述べることになった。ペアでお互いに話し合うことで話の内容が深まり、新たな気づきもあるのではないかという思いが残った。

今後は、第3木曜日を定例にワークショップを行う予定です。
女性限定のワークショップです。女性の方でしたら、会員以外の方の参加も大歓迎ですので、問い合わせ申し込みをお待ちしています。
(詳細は 21 ページにて)



¹ 中井房五郎が大正時代に創った治療法が土台になった体操

前回は原家族とのいざこざで疲れていたけれども、一ヶ月に1度は相談をやるときめたし、家にいるのもんもんとするしと、がんばって行った。そのことが後をひいたのか、相談に行きたいという気持ちがなくなっていた。早くも3回目にて挫折している。三日坊主にもならないほどだ。

相談を受けるととにかく疲れる。緊張しすぎて震えてきたりもする。それが嫌でもう、相談はやりたくないという気持ちだった。

でも、せっかく相談員トレーニングを1年かけて終了したんだし……。予定の少ない週を見つけ、そこに入ることにした。二日前からの準備をした。ほぼ、寝て過ごして体調を整える。

6時から十分遅れて事務所についた。この微妙な遅刻がやる気のなさを表している。

私は沈黙が苦手だ。そのことを意識し出したのは相談員トレーニングの時だった。高山さんは「沈黙は相手にしゃべらせる程よいプレッシャー、相手に破らせるように。苦手な人は、沈黙があつたら、ラッキーと思うこと」と教えられた。

高山さんは相談員トレーニングの中でも「沈黙」を効果的に使っていた。十数人ほどのワークショップで高山さんが「～はどう思いますか？」と投げかける。無論、そこで口火を切って話す人はなく、沈黙が流れる。私ははらはらして周りを見る。誰か、話す人はいないのだろうか？どうしよう…私はそれに耐え切れず、手を上げて話してしまう。まさに、高山さんの目論見どおり私は沈黙のプレッシャーに促されているというわけだ。しかし、そこには「沈黙」が大丈夫な人とそうでない人でグラデーションがあり、私は、自分が不得意であるということをしっかりと認識した。そして、沈黙のプレッシャーを意識し、我慢するということも学んだのだ。

ホットラインでも沈黙がしばしば訪れるたび、私は一瞬焦る。何かしゃべらなくては！でも、そこで、「よし！」と唱え直す。

いーち、にー、さーん、しー、ごー、ろく、なな、はち、きゅー、じゅう、
「それでね…」

相談者さんが口火を切る。

私はこの沈黙をチャンスとするというやり方をやりはじめて以来、皆、10までには不思議と話し出す。10を超えた場合は12まで数え「思い浮かばなかつですか？」と聞くと、「うーん、それでね、」と話し出す。

「沈黙はチャンス」と高山さんは教えてくれた。そのとおりで、沈黙に話し出される言葉は、ざくざくと情報と感情の宝の山のようだ。「そんなこと考えていたのか！」とか「おー、そんな策を練つたりもしたのか」などなど、相談者さんならではの試行錯誤をたくさん聞くことができる。

私はいつしか沈黙にあせるのではなく、「ラッキー」と心から思えるようになっていた。相談者さんが黙るとき、そこには宝の箱がある、私はそれを開けてもらえるように信頼関係を作っていくような相談がしたい。

U C L A

サマーインスティチュート 参加報告

UCLAのレイバーセンターが主催した
夏の講座に参加してまいりました

in ロサンゼルス

栗田 隆子

フェイスブックに掲載した日記を一部改正して、こちらでお伝えします！

2016年8月9日

本日、UCLAのレイバーセンターの訪問をする。
いろいろ衝撃的だった。
何が衝撃的だったかといえば、レイバーセンターの
ディレクターのケント・ウォンさんの温かさ、「ここにい
てもいい」というメッセージを、言葉だけでなく、私の
言葉を最後まで聞き取る姿勢などにものすごくしつ
かりと現れていたことだ。「あなたが来てくれて嬉しい」
というメッセージを常にしてくれることを keep
involving というそうだが、それが運動の中の根本としてあるということを感じられたことが、私には衝撃
的だった。

私は彼に職場のイジメや、暴力などが頻発している日本の状況、仕事場で人が支え合うのではなく、競争主義的になって、貶め合う事態について不確かな英語で必死に話をした。一対一の問題を大切にしながら、社会の文化を変えていくこと、とにかく、小さなところからスタートすること、また、教会や労組や大学などが連携する際にも、そこの団体の一部の人で賛同してくれる人がいるなら、その人と繋がること、などなどだ。またケントさんは、常に一人の個人だけが大事なのではなく、常に人の力が必要で、つながりや連帯が大切だと言っていた。そのつながりや連帯とは、自分の能力を信じるのでなく、人がいてくれることをありがたいと感じる感性こそがもたらすのではないか。



2016年8月10日

本日はフィリピーノワーカーズセンターと IDEPSCA(Institute de Education Popular del Sur de California)、そして LAANE(Los Angeles Alliance for a New Economy) へとインタビューし、UCLAに移動。昨日もそうだが、フィリピーノワーカーズセンターでも、IDEPSCAでも LAANE でも「社会正義」という言葉をとてもよく使うことがとても印象的。
IDEPSCAでは、教育のワークショップで絵本を見ながら感想を言い合うことが一つの訓練という話も印象的。



私は定年退職後、高齢期に向かう身体が自分にとって現実的な課題となり、やはり「食」が大事と思うようになりました。みなさん、もちろん玄米ご飯はご存知でしょう。玄米は発芽させて炊かないと体に毒だということも。発芽玄米ごはんはプチプチとしていて、それはそれでおいしくいただいていたのですが、発芽玄米ご飯を三日間保温させてつくる酵素玄米に出会ってから、もうこれだと思います。モチモチとした食感で、食べてもお腹に負担感が全くないのです。小豆と一緒に炊くので色もお赤飯に似ていますが、お赤飯よりも口の中でふわっとほぐれる感じでしょうか。酵素玄米を知ったことで、質素だけども身も心も「うまい！」と喜ぶ「贅沢な」食の基本を手にしたと思いました。ほとんど総入れ歯の90歳近い母も、これはおいしいと喜んで食べています。

私の作り方をお伝えします。

材料

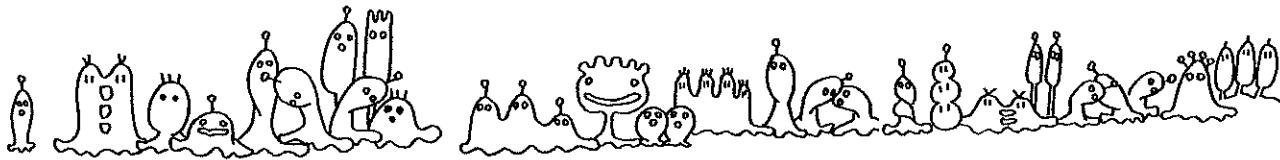
(二人で3日分)①玄米3C, ②小豆1/2Cと金時豆1/4C, ③塩小さじ1/2. (注: 豆好きなのでかなり多めです。)

作り方 ①玄米を発芽させる(30度で一日浸水、芽が出る手前のぷくっとした状態)、
②発芽した玄米に水(玄米の1.5倍+乾燥豆用で4.5C+25cc)、小豆、金時豆と塩を加え、玄米の表面に適度な傷をつけるため泡だて器で8分攪拌し、
③炊飯、その後15分蒸して切りながら混ぜる、
④一日一回ご飯を天地返しでかき混ぜ三日間保温して出来上がり。

「三日間寝かせる」間に酵素の働きが活性化し、ミネラルやビタミンも吸収されやすいものに変化するそうです。玄米の中の水分が均質化してモチモチ感がアップし、強い抗酸化作用があるメラノイジンが増加して色が濃くなります。何日も保温して腐らないというのは本当に不思議です。

発芽玄米を作るときに重宝しているのが、ヨーグルトをつくるための保温器。温度調節が簡単です。酵素玄米の作り方はネットで検索するとたくさんでできますが、私なりに試行錯誤して今のやり方に落ち着きました。炊飯器と保温ジャーを併用し、炊飯器の酵素玄米が2日目になったら、発芽玄米を作るために玄米を水に浸し、3日目になつたら炊飯器の酵素玄米を保温ジャーに移して、前日から発芽させた玄米を炊飯する。このようなサイクルで、母と二人で、ひと月5kgの玄米を食べています。常備菜としては食物繊維がたっぷりあるヒジキ、切り干し大根、高野豆腐などが好きですが、この夏糠漬けもはじめたので、今はみそ汁と糠漬けが食卓の定番です。おかげは、ご飯に合うものならなんでもいいです。先日作ったグリーンカレーも、実に美味でした。酵素玄米のある生活をこの4月から5ヶ月続けてきましたが、今では私の生活にすっかり定着し、もう手放せないという感じです。

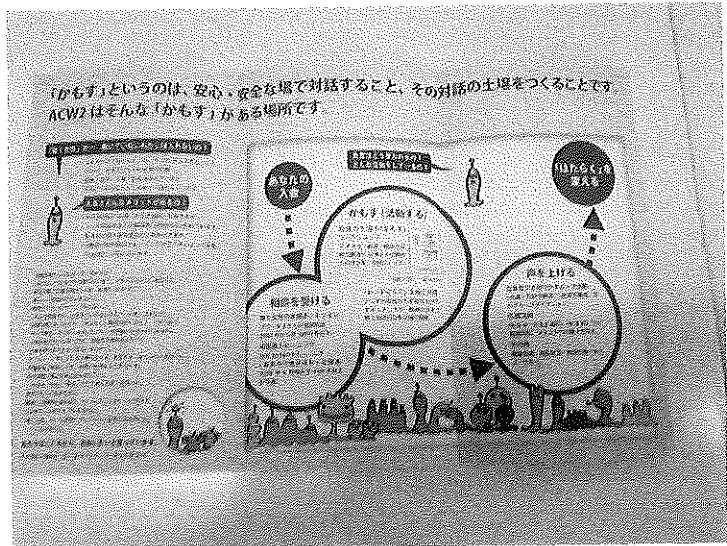
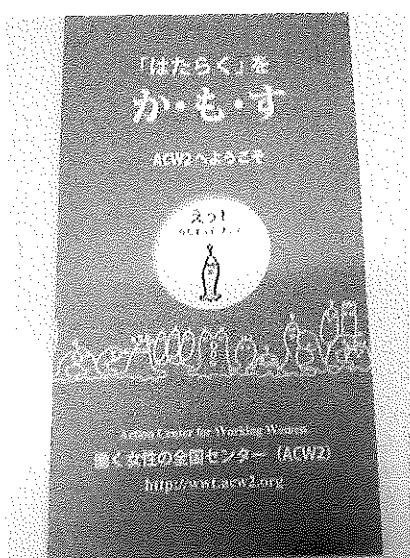
みなさまへ リーフレットを新しくしました！



働く女性の全国センターの新しいリーフレットが出来上りました。

最初の原案をナガノハルさんが作成し、運営委員会で、「あーでもない、こーでもない」とかもしあい。それでも、最初に案を作ってくれた、ナガノさんが、「まだこれじゃ ACW2 に入りたくならない。興味わかぬ」と「ダメ出し」をもらいました。また、デザイナー横山さんが良いということでお一致。表紙は、中身の色合いは、と最後は 2 つの案に絞られ、それでも暗めの色が若い世代は好きとなり、明るめの色合いがシニア世代は好きと。ここでも、意見が二つに分かれました。最後まで「あーでもない、こーでもない」と、かもしあい。表は、若い世代に手にとつてもらいたいと暗めの色合いで、中身は明るめの色合いにすることでようやく合意に至りました。かもしあいの結果はだれか一人の意見ではなくて、かもしあった結果なので、満足しています。

仙台の、ある男女共同参画センターからは、リーフがあつという間になくなるから 50 部送ってくれと注文が早々に入りました。今月のニュースで会員のみなさまには 2 部ずつ同封いたします。1 部は、あなたの手元に、もう一部を誰か、一緒に会員となり「かもしたい」友人、知人に渡してみてください。(伊藤)



お知らせ

ばやっとが熊本に登場！

被災地訪問相談事業のチラシに4コマまんがを提供

「私たちが伝えたいことが、非常にわかりやすく描かれていて、潜在的なニーズをお持ちの方に訴えかける力がある」とメールをいただき、チラシに使わせてほしいという申し出をありがとうございました。

かもす通信を作りながら、いつも、「これ、誰か読んでるかな？」と不安な気持ちなのですが、こうして、反応があつて、なおかつ、チラシに使いたいという申し出だと、あ、届いてるなーと大変うれしいです。(ナガノ)



週刊金曜日にヌエックの記事がありました。

週3日労働「思考実験から描く女性の未来」

「週刊金曜日」9/16の1104号にて、ACW2のヌエックでのワークショップの模様が記事になりました。

今回のかもす通信とあわせてご覧いただけたうれしいです。



レッドマリア自主上映会情報 詳しくは HP で

●女・げんきビデオ＆トーク

『レッドマリア それでも女は生きていく』(2011/韓国/98 分): 監督キョンソン

韓国・フィリピン・日本の社会の辺境で働く女性を描いたドキュメント～女・女西宮～

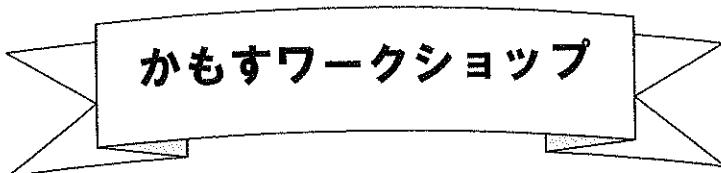
2016年10月29日 17:00～19:30 西宮市男女共同参画センター 411 学習室

[講師]栗田 隆子 (働く女性の全国センター(ACW2)) [定員] 25名 [参加費] 無料

[連絡先] E-mail onnagenki2010@gmail.com

●『レッドマリア』上映と対話のワークショップ

2016年12月10日 13:00～15:00 場所 千葉市男女共同参画センター



「『女性』たちが参加しやすい活動をめざして」@東京

働く女性の全国センター主催で全10回かもすワークを東京オリンピックセンターで開催しています。従来のかもすワークショップに対話トピックスでかもしあうというパワーアップバージョンです。

当日参加、席に空きがあれば、歓迎します。確実に参加したい方はぜひお申し込みください。みなさんにお会いできるのを楽しみにしております。 *希望の回だけでもOKです。

いつ	どこで (センター棟)	内容	対話のトピックス
第8回 10月21日(金) 19:00~21:30	307号室	対立の分析と対立を 変化へ	真っ先に仕事を失う女 や若者、少数者が作る グループと全体のこと
第9回 11月18日(金) 19:00~21:30	503号室	チーム作りと合意形 成 1	トップダウンでは多様な やり方や違いを尊重で きない、どうしたら?
第10回 12月16日(金) 19:00~21:30	502号室	チーム作りと合意形 成 2 多数決より話し 合い	活動・組織と、女性が生 きること

【場 所】 小田急線参宮橋 国立オリンピック記念青少年総合センター

会場 行き方、地図、センター内の地図は下記から 電車でお越しの場合

<http://nyc.niye.go.jp/category/facilities/map/>

【会 費】 会員 500円 非会員 1000円 (毎回 テキスト代含む)

【募集人数】 性自認女性限定 20人限定 定員になり次第、締め切ります

【申し込み】 下記を記入の上 FAX03-6803-0726 もしくは、メール office@acw2.org で。

名前(ふりがな)、電話番号、住所・郵便番号、メールアドレス、会員 or 非会員、参加希望の日

第4回「対話の土壤をか・も・すワークショップ」@福岡

テーマ:「自由応答式質問とトレーニング」(「人の話をよく聞く、傾聴と質問のトレーニング」より)

日 時:10月20日(木)18時30分~21時

会 場:あいれふ(福岡市健康づくりサポートセンター)福岡市営地下鉄「赤坂駅」より徒歩5分

参加費:100円(会場及び資料代)

※参加は女性の方のみに限らせていただいています。

申込・問合先:ワーキング・ウイメンズ・ヴォイス事務局

TEL/FAX:092-806-6629(山崎方) E-mail:wwwfukuoka@yahoo.co.jp



「働く女性の全国ホットライン」10年目のリアル ～だれもが週3日労働で生きられる社会に～

【日 時】11月12日(土)

開場/17:30 開始/18:00～

【場 所】東京ウイメンズプラザ 2F 第3会議室

【資料代】300円

働く女性の全国センター主催のホットラインは、2007年からこれまで3000件以上の相談を受けてきました。

男性主導の労働相談では見えてこない、非正規女性たちの実態、働きたくとも働けない、働いても細切れ雇用で生活できない、職場の人間関係・ハラスメントの問題などが相談から見えてきます。

10年間の推移と現状のリアルを共有した上で、今年「週3日労働で生きさせろ」(3日間働けば生活や社会が成り立つように)というテーマを私たちが立てていることについて発表し、議論を深めます。

家事・育児・介護をせずに済むケア付き男性正社員を「標準労働者モデル」とすることの見直し、すべての労働をディーセントワーク(働き甲斐のある人間らしい働き方)とすることを参加者と一緒に考えていきたいと思います。



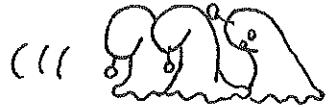
Tシャツ刷ってみました！

シルクスクリーンという技法を使い、ぽやっとTシャツを手作りしてみました。非会員2000円、会員1500円で販売する予定です。手作りのため量産がなかなかできないのですが、よろしくお願ひします。

ウイメンズのワークショップで販売できたらいいな・・・(ナガノ)



¥ カンパのお願い



カンパ合計

¥233, 600

2016年6月～8月分

収入¥ 440, 901 支出¥727, 127

2016年度の6月～8月までの会計報告をいたします。233,600円のご寄付を頂きました。心より御礼申し上げます。お陰様でACW2のリーフレットのリニューアルができました。しかし、収支の差は赤字となっております。なんとか繰越金でやりくりしております。引き続き 皆様非常に苦しい、厳しい状況の中、恐縮ですが、なにとぞこのホットライン並びにACW2の存続に力を貸していただけたら幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

カンパ振込先

一口 1000円、何口でも。

郵便振替 00130-1-669637
働く女性の全国センター

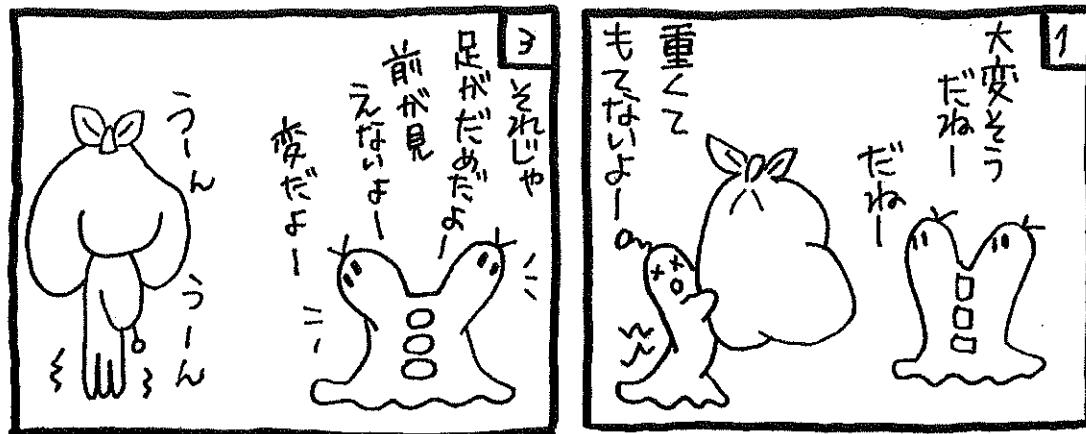
銀行振込 三井住友銀行 渋谷支店 普通 8658522
働く女性の全国センター 伊藤 みどり
ハタラクジョセイノゼンコクセンター イトウ ミドリ



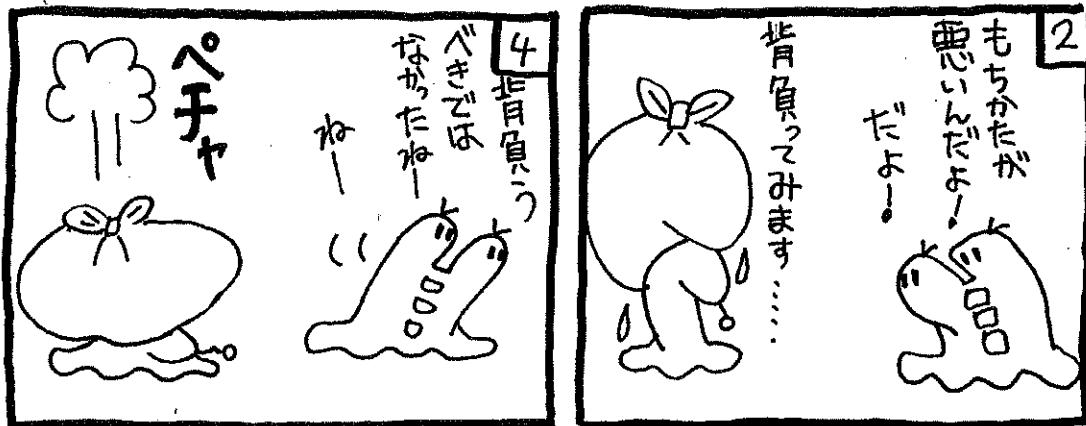
編集後記

今回は UCLA に行くため栗田さんは編集作業はお休みということで伊藤さんにバトンタッチ。伊藤さんとは初作業だったのですが、これがまたまあ……やることが早いこと早いこと！さくさくさくーと作業をこなされるパワーに私は圧倒されつつやりました。私はかもす通信を一人ではなく、スカイプで話しながら作業するのが好きです。編集作業って、「あれ、ここどうしよう…」っていう細かい判断の連続なのですが、それが結構疲れる。この原稿を立てれば、あちらが立たず…みたいなジレンマに立たされたとき、相談できるというのはすごく心強い。最近は3ヶ月に一回のこのかもす通信をつくる作業も楽しみのひとつになってきました。
(ナガノ)

ナガノさんとスカイプを繋いで対話しながら、その場で原稿を整理しメールで送るという作業を初体験しました。編集する側の大変さも理解しました。早ければ良いのか悪いのか、誤字脱字修正お願いします。運営委員有志は今年又エックで一つの部屋で2泊3日の合宿を体験し寝起きの悪さや元気の良さまで共有しながら「あーでもないこーでもない」と対話することが当たり前になってきました。「かもしれない」は、自己に正直に私の言葉で他者と対話すること。意見の違いをめんどくさがらず尊重し理解しあうこと。そうすると賛否でなく深まる。意見の違いがあるからこそ、「かもしれないできた、良かった」が共通体験になり、対話の土壌が熟成しつつあります。
(伊藤)



アドバイス



ナガハレ

【コメント】

前回に引き続き、「荷物」シリーズです。ぼやっとの力をそいでしまう相談の受け方「アドバイス」。アドバイスはやってしまいがちです。アドバイス全部を否定するわけではないのですが、されると案外いい気持ちはしないもの。そういった、かもすワークショップもあります。そこでは、1. 否定する 2. アドバイスする 3. きいてきて質問するという三つのパターンを経験して、どんな気持ちかを分かち合っています。みなさんは、「アドバイス」どう思いますか？

働く女性の全国ホットライン 0120-787-956

毎月 5. 10. 15. 20. 25. 30 日 平日 18:00~21:00/土日祝日 14:00~17:00

秘密厳守。会員のあなたもぜひご利用ください。毎月 5 日はセクハラ集中相談日

【住所】〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階

【TEL】03-6803-0796 【FAX】03-6803-0726 【e-mail】office@acw2.org

【HP】<http://wwt.acw2.org/> 【Twitter】<https://twitter.com/acw2org>

【正会員(性自認女性)年会費】1口2,000円(何口でも可)1口1,000円(生活困窮者)

【通信/サポート会員(男性歓迎)】1口2,000円(何口でも可)

【郵便振込】00130-1-669637

【銀行口座】三井住友銀行 渋谷支店 普通 8658522

感想・おたよりなど待っています。「かもす通信」係までお寄せください。

2016年9月発行 33号 編集・発行 働く女性の全国センター